URL 閲覧履歴における有効な日数の解析に関する研究

97H138 野崎 謙一

1　はじめに

現在、ほとんどの大学の演習室のパーソナルコンピュータ (PC) は、複数の PC を特定多数が利用し、自分専用の PC が割り当てられていることは少くない。そのような環境では、ユーザが過去に訪れた Web ページの閲覧履歴はユーザーが PC を変更するたびに見れなくなり、非常に不便である。また、ユーザーが特定の一台の PC を使っていても、他のユーザーがその PC を使うことによって、ユーザー独自の過去に訪れた Web ページの閲覧履歴を表示することが出来ない。そして、一般的なブラウザ (Mozilla など) では履歴が表示されるだけで、ユーザーが過去に訪れた Web ページはどれだけの頻度で訪れているのか分からず、良く行く Web ページを探すのは必ずしも容易ではない。

そこで、本研究はいかにユーザーの Web 情報の検索・閲覧を支援することが出来るか検討する。

2　研究内容

上記で述べたような、従来の Web ページ閲覧履歴の欠点を補うために Proxy サーバに保存されているログをもちい、Web ページ閲覧履歴を作成する。

従来のカレンダー通りの 3 日分などの Web ページ閲覧履歴では、数日間 Web ページを閲覧しないと Web ページ閲覧履歴が表示されなくなり、使えないときが在った。そこで、本研究の ERM(Eevey Recode Maker) は “有効な n 日間の履歴” と言うものを実装している。“有効な n 日分の履歴” とは、Web ページを閲覧したことの有る日を一回として、n 回分の Web ページ閲覧履歴を表示する。

また、Web ページ閲覧を支援するために、履歴選択表示にカレンダー表示 (7x5) を取り入れ、このカレンダー表示によりユーザーは日付や曜日を視覚的に分かりやすくなっている。さらに、有効な n 日分の履歴以外にも、有効な n 日前の履歴、各日の履歴、過去 30 日間分の履歴、曜日毎の履歴、過去 4 週間で 1 週間づつの履歴と多彩な履歴選択方法から選ぶことも出来る。また、履歴表示はユーザが Web ページに訪れた回数を記録し、その回数をソート (回数の多い順) して表示している。これにより、ユーザーがよく行く Web ページは上位に表示される。

3　まとめ

本研究でさまざまな履歴選択方法で履歴を参照することが出来た。これは使うユーザや、その時々によって、記憶や考え方、使い方が違うからである。そして、得点化、ソートを取り入れることにより、上位によく行く Web ページが表示されるようにもなった。しかし、その上位の全ての Web ページが必ずしももう一度参照すると言うことは無い。また、ユーザを認識するために ident デーモンを利用したが、これは Windows 系の OS では標準で実装されていないのでインストールする必要があるなど、まだまだ改良の余地が有ることが分かる。